論文審査の結果の要旨

氏名：植　松　昭　仁
専攻分野の名称：博士（医学）
論文題名：Factors influencing adherence to nasal continuous positive airway pressure in obstructive sleep apnea patients in Japan
（日本における閉塞型睡眠時無呼吸症候群患者の経鼻的持続的陽圧換気(n-CPAP)療法のアドヒアランス影響要因に関する検討）

審査委員：（主 査）　教授　平　山　篤　志
（副 査）　教授　岩　﨑　賢　一　　教授　櫻　井　裕　幸
教授　石　原　寿　光

閉塞型睡眠時無呼吸症候群（OSA）は昼間の眠気だけでなく，高血圧，脳梗塞，心筋梗塞など種々の循環器疾患の原因となることが明らかにされており，その治療としての経鼻的持続陽圧換気（n-CPAP）療法は安全性と有効性が確立されていることから，第一選択の治療となっている。さらに，OSA の長期的な予後改善には，疾患の重症度より n-CPAP 療法の継続(アドヒアランス)が重要であることが示されているが，継続が困難な場合も多いことが臨床的には問題であった。欧米でのアドヒアランスについての研究はあるが，診療報酬が異なるため，我が国の実臨床で n-CPAP 療法のアドヒアランスを改善することを目的に，n-CPAP 療法のアドヒアランスに影響する因子を検討した。1990 年から 2009 年の 20 年間に治療を受け一年以上経過した患者のうちで，アドヒアランスに関連する因子についての質問票に回答した 732 名を対象に因子が解析された。n-CPAP 使用状況から，継続群と中止群に分類し，また継続群を良好群と不良群に分け，各因子について検討した。継続群と中止群の比較から，客観的要因として年齢と覚醒反応指数が，また主観的因子として治療に伴う不眠／睡眠不足，症状の改善がない／治療効果の実感がない，そして治療に伴う呼吸困難感の 3 因子が明らかにされた。またアドヒアランスが不良になる因子として治療圧の違和感、およびマスクの脱落／無意識のマスク外しの 2 因子が明らかにされた。このことから n-CPAP 療法においては OSA の重症度より主観的要因の重要性が明らかにされ，我が国での初めての知見であった。今後，患者の訴えを十分注意深く傾聴して，患者教育の充実あるいは療養指導によりアドヒアランスを向上させることの重要性が示唆されたとの結論を得ている。

よって、本論文は博士（医学）の学位を授与されるに値するものと認められる。

以　　上

平成２９年１０月２５日